

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400855		
法人名	特定非営利活動法人黎明		
事業所名	グループホーム夢路西ホーム		
所在地	熊本県玉名郡和水町前原90-1・91-1		
自己評価作成日	平成27年11月10日	評価結果市町村受理日	平成28年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	平成27年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者・家族が安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいる。利用者以外はすべて環境という、意識を職員全員で持ち、生活空間づくり、危険のない清潔なホーム内を保つようにしている。そして、利用者と共に作っていくことを大切にしている。職員の人的環境を重視し、ホーム内研修に於いて常に学び、深めて利用者の立場に立って考えられる職員研修を行っている。現実、高齢、重度化し看取りがきても、本人、家族、医療機関との連携を図り、最期まで「自分らしく生きる」ことの支援に努めている。利用者の自己決定・意思の尊重を深く考えた生活の支援をしています。そして、地域に開かれたホームであるように情報の発信、協力の要請、相談等を地域と共に行っている。今後も、地域の皆さんと相談しながら、認知症になっても、誰もが安心して暮らせる地域づくりに貢献できたらと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くの神社には大きな木が繁り、栗林や野菜畑が広がる自然環境に恵まれたホームである。18名の利用者にとつて、食事が美味しい事、優しい声掛け、そして自由である事というホーム長の強い信念のもと、利用者個々のニーズを反映したその人だけのオリジナルケアプランの作成に力を入れ、職員と共に穏やかな暮らしが営まれている。開設14年目を迎えた今、地域に受け入れられ、運営推進会議には多彩なメンバーが揃い、ホームを支えている。又、これまでに21名の入居者を看取っており、引辞を依頼される程家族との強固な信頼関係が築かれている。これは、ホーム長とそれを支える職員の地道な努力の積み重ねの賜物であり、今後益々地域になくはならないホームとしての活動と役割が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員がいつでも見れるように掲示し、常に各自で確認し、ケアにつながるように日々話し合い、共有している。	利用者のこれまでの生活歴を尊重して「生き生きと笑顔のある暮らしの支援」を理念としている。日常生活の安定がなければ笑顔を引き出す事は出来ないと考えており、「おいしい食事の提供、優しい接遇、自由の保障」の三本柱を全職員が理解し、日々の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事には積極的に参加しており、地域の人たちと交流している。	開設13年という歳月の中で、常に地域との付き合いを大切にし、地域に積極的に出向く事で理解と信頼が得られている。近くの神社の「茅の輪ぐり」参加の折りは、地域住民が利用者の手を引いたり、車椅子ごと運んでくれたり支援が自然な形で行われており、地域がホームに何か協力できる事はないかに関心をもってもらえるような関係が出来ている。ホームのクリスマスコンサート等の行事には地域住民の参加があり、地域と共にあるホームである事が伺えた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に出前講座などを行い、認知症の正しい理解と支援の方法を伝えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、家族、行政との情報交換や意見、要望を聴き、その事を謙虚に受け止めサービスに活かしている。	委員は、民生委員・区長・駐在所・消防署・地域のスーパー・社協・地域包括・家族代表等、多彩な委員で構成されている。ホームから、取り組みの現状報告と今後の予定が示された後、各委員からそれぞれの立場で活発な意見が出されている。民生委員が、自分の情報を伝えたり、利用者と面会した後に会議に参加する委員もあり、各委員がホームに関心を持った関わり方で、充実した会議となっている。	次回、協力病院の外来看護師の会議参加も予定されているとの事で、ホームへの更なる理解と協力が期待できる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政、他町村と密に連絡を取り合っている。協力関係を築いている。	町行政には入・退所に関する連絡表を届けたり、認知症で悩んでいる地域の家族から直接ホームに相談があり、確認後行政に繋ぐ等、積極的な関わりが見られた。ホーム長は福祉に関する多くの役職を引き受けており、行政からの相談を受けて共に取り組む協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアで絶対に行わないように、スタッフ全員で勉強し、正しい知識を理解している。	職員は、ホーム内研修等で学んでおり、身体拘束の弊害を十分認識している。利用者の安全面から、4点柵や夕方からの施錠等がやむを得ず必要と判断された場合は、家族の了承を得て実施。スピーチロックやアイロックも考慮に入れ、抑制はしない、マスクは必要時にしか使わない事を心掛け、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	絶対に行わないケアをしている。勉強会でもしっかりと学び、スタッフ全員でそれぞれが自覚しケアしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会などで学んでいる。また、必要なときに利用し、支援できるように、市町村とその都度相談しながら行えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人や家族の不安など様々な思いを受け止め、入・退去時にはしっかりと話し合い、理解をして頂いた上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、何でも書いて頂けるようにしている。また、利用者、家族との信頼関係を築き、何でも気兼ねなく言って頂くように伝えている。	一人暮らしや、子供がいない、家族の仕事が多忙等の理由で面会は多くないが、衣替えや病院受診の依頼等の働きかけをすると共に、電話や「夢路通信」で本人の暮らしぶりを伝え、家族の意見や要望を引き出す努力が見られた。又、運営推進会議の中で、訪問診療の事を知った家族から、それを受けたいとの要望があり、即、対応した事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの勉強会を月に1回行っており、意見があれば誰でも言えるようにしている。また、気付いたことがあれば言える環境にしている。	両棟合同のホーム内研修を月1回行っており、職員の意見や提案が出されている。教育委員(職員)が会議の進行を務め、出された課題について職員相互の意見交換で、ケアの統一と情報の共有が図られている。又、毎日、申し送り後にその日の職員でカンファレンスをしてホーム長に報告しており、利用者へのより良いケアに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや目標を持ち仕事ができるように目標をそれぞれが立て働いている。また、その目標が達成できるように助言や支援を行っている。そして、その結果を給与・賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量を把握し、段階を見ながら研修などへ参加できるように機会を確保している。学ぶことの大切さを伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームと玉名郡市の連絡会で交流しており、多くのスタッフが参加できるようにし、情報交換や思いを聴くことで、自分自身のケアを振り返る機会となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の声かけなどには配慮し、本人の不安感や緊張感が軽減できるようにゆっくりと時間をかけ安心して頂けるように、思いを受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や悩み思いを時間をかけて聴き、そして受け止め、不安などが軽減するように信頼関係を大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずはしっかりと話を聴き、受け止め、家族と相談しながら、今必要とするものは何かを見極めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方から教えて頂く事が沢山あり、その事をスタッフが謙虚に受け止めており、その事がお互いが支えあう関係となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしかできない事もあり、その事を家族にも伝え、共通の思いで利用者の方を支えていけるように関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な人、場所など継続してつながっているように手紙や電話の支援を行っている。また、家族の協力もお願いしている。	近隣の方々の訪問を歓迎し、気がねなく再訪してもらえるよう配慮している。家族に対しては、馴染みの店や行きつけの美容院への同行を依頼したり、受診の帰りに自宅へ寄ってもらう様な働きかけを行い、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方、一人ひとりの個性や性格を把握し、お互いが支えあい生活して頂けるように支援している。また、それぞれの方の思いも理解し大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後でも、本人や家族との関係を大切にし、いつでも相談に来られていい事を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを把握し、その思いをしっかり受け止め、その思いに添ったケアをしている。	ここでどんな暮らしがしたいか、ここで何をしたいか、本人の思いを十分聞いて、食べたい物や行きたい所等の把握に努めている。日常的には、リビングや入浴時での何気ない会話の中から本音を受け止め(感じ取り)、申し送りノートに記入。情報を共有した上で、可能な限り思いや意向に応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活状況や、生活歴などを家族や本人に確認し情報を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報をもとに、本人がどのように過ごしたいかと現状を把握し、本人に合った暮らしをして頂けるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の思いを反映し、介護計画を作成している。また、現状変化などがあればそれに応じた計画に修正している。	ホーム長・リーダー・ケアマネ・担当職員で、担当者会議を行っている。プラン作成にあたって重要視しているのは、全利用者一人ひとりの思いや意見を尊重した、その人だけのオリジナルプランとなっている事。その上でケアプランに沿った個別ケアに取り組み、本人の生活の安定に繋げる努力が見られた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況や精神状況、また、言動などを個人記録に記入し、スタッフ間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のその時の状況に合わせて訪問診療や訪問看護が開始できるように迅速な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々に行事の時など協力して頂いたり、訪問や慰問を受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の意思を尊重しながら決めている。本人の状態の変化など医療機関と連絡を密にとり、すぐに対応できるようにしている。	ホーム生活が長くなるにつれ、状況の変化と共に本人・家族の了承を得て、ホームの協力医療機関をかかりつけ医としている利用者がほとんどである。定期検診と受診は職員が同行し、その都度家族に報告して安心を得ている。訪問診療も受け入れ、家族も同席して話し合いを持ち、医師の意見もケアプランに反映させて、利用者個々の健康管理に留意している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化にすぐ気づき、医療機関への相談やスタッフに看護師が多いのですぐに対応できるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は本人の不安感を取り除けるようにスタッフがお見舞いに行っている。また、情報交換を行い医療機関との連絡を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対して、本人家族と早い段階から話し合いを行い、思いに添ったケアができるように支援している。また、スタッフの間でも方向性を検討しながら、身体の変化に対応できるようにチームで考え支援している。	ホーム長は、開設時から看取りを行う方針を明確にしており、努力を重ねて開設13年で21名の看取りを行った実績がある。家族の信頼も厚く、ホーム長は、弔辞でホームでの暮らしをDVDで紹介し、家族と共に本人の暮らしを支えてきたことを伝え、家族のグリーフケアにも配慮している。又、全職員が、通夜か葬式に参列しており、生活の延長線上に死がある事を認識し、今の暮らしを大切にという利用者への思い(関わり)を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師に指導や助言をしてもらいながら急変時など迅速に対応できるように日頃から訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の確認や避難できる方法をスタッフ間で日頃より話し合っている。また、防火訓練を行い地域の方の協力も得ている。赤電話での対応、連絡網での伝達強化している。	12月の寒い時期の暗くなった夕方、消防署立ち合いのもと、近隣住民の協力も得て夜間の避難訓練を実施している。職員が利用者になりきりきっての訓練は、暗さと寒さから来る不安で緊張感を高め、実際の火災の恐怖や、利用者を安全に避難させる責任感に繋がった取り組みとなっている。又、自主訓練には利用者も参加しており、どの居室から救出するか等を想定した計画も整えられている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の性格や個性をしっかりと把握し、プライドを傷つけない声かけや本人にあった対応をしている。	入浴や排せつ時の羞恥心への配慮は当然のこととして、利用者的人格を尊重したケアに取り組んでいる。又、失禁に対する声掛けや食べたのに食べていないという人への対応等、その時、その場面に応じて、一人ひとりに合ったケアの実践に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方が自分の思いを言える環境作りを行っている。また、自己決定が出来るよう、考えやすい声かけ、伝えやすい環境づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思い、その日の体調などを把握しながら、1日を穏やかに過ごして頂けるようにその方のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出のときの化粧などの支援や朝の身だしなみなどその方に合わせて声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を取り入れ、また、一緒に畑に収穫に行ったりし、食事の中で楽しく会話ができるようにしている。また、利用者の方それぞれが食材切りやつぎ分け、配膳など、出来ることをされている。	おいしい食事の提供にはこだわりがあり、新鮮であり、旬の物で季節感が感じられる物を食材とし、野菜類は畑から取りたての物を、魚類は田崎市場から取り寄せている。両ホームで違うメニューを、栄養士や職員が作成しているが、利用者の嗜好が反映された食事、職員も同じ物を一緒に食べており、家庭的な食事風景が見られた。一人ひとりの食べる量も配慮され、食べ物を残す罪悪感を払拭している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量をしっかりと把握し、その方に合わせて提供している。また、1日を通して栄養のバランスを考えながら支援している。栄養士と常に献立の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアの声かけを必ず行っている。本人の状態に合わせた声かけ、支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握しスタッフで共有している。また、排泄のサインを見逃さないように観察を行っている。	両ホームとも自立の人は少なく、紙パンツ・リハビリパンツで時間をみてトイレ誘導して見守り、排便確認をしている。夜間、ポータブルトイレ利用者の動きは、物音で察知し、失敗や安全面に配慮したケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫やおやつ時の唐芋、冷たい牛乳などで便秘への働きかけを行っている。毎日、夕食にヨーグルトを食べてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いをせずに本人の思いを大切にしながら、入りたいと思われたときに入浴できるように支援している。	特に入浴日は決められておらず、週2回、午後から1日3～4人の入浴支援が行われている。マンツーマンの介助で、浴槽に浸かってゆっくり職員との会話を楽しんだり、入浴ができない利用者には清拭で対応するなど、清潔感を保つ配慮が見られた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの方の生活リズム、睡眠のパターンを把握し、本人が安心される場所で気持ちよく休んで頂けるように声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変更があったらその都度申し送りをし情報を共有している。また、副作用や食べられないものなど確認しあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の楽しみや趣味を把握し、その方の活躍できる場面を見つけ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせた花見や毎日の買い物などその方の思いに添いながら外出の支援を行っている。	すぐ近くにはお宮があり、周辺には雑木林のような木立ちや広い野菜畑があるなど、自然環境に恵まれているので、車椅子や手をつないでの散歩で気分転換が図られている。年1回、他事業所の利用者も参加する「ふれあい交流会」は、利用者が主役となって歌や踊りの出し物で賑わい、非日常の外出として利用者に適度の緊張感と達成感をもたらしている。	「ふれあい交流会」は、他市町村にはない取り組みという事であり、今後も継続的に行われる事を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎日の買い物の際自分のお金で買い物できる場を作っている。個々に合わせてお金を預かったりし本人さんの必要な金額をその都度渡すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があるときはいつでも使ってもらえるように設置してある。手紙を書く行動はなかなか見られない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれており、食堂の窓からは四季折々の風景を感じることができる。手作りのカレンダーを飾ったり、花、観葉植物などを置き暖かい雰囲気が作られており、自然と皆が集まる場となっている。	両ホームとも木造平屋造りで、畳敷きのスペースには枕・クッション・ひざ掛けを準備し、本人の気分次第で横になってくつろげるように配慮されている。リビングにはピアノがあり、音楽療法にも活用されている。東ホームは、玄関正面にスタンドグラスがあり明るい印象だが、西ホームは廊下が暗いように思われた。又、居住空間回りには、ウッドデッキがあり、天気の良い日は、日光浴や、ティータイムを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、リビングが隣り合っており、好みの場所で自由に過ごして頂ける場を設けている。ソファや椅子を多く設置しておりなるべくその人の居心地のいい空間になるように日々工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのある使い慣れたものを置いて頂くように入居の際声かけを行っている。本人、家族と相談しながら居心地良く生活できるように支援している。	広い窓から入る陽光で、ベッドの上に寝具を広げ、そのまま布団干しの効果が得られている。窓からすぐ目の前に広がる栗林や畑は、開放感があり、落ち着いた暮らしができるように感じられた。物への執着があまり無い利用者もおり、持ち込み品が少ない部屋もあるが、使い慣れた寝具やタオルケット等で安心の暮らしが出来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの方の出来る事を理解し、一人ひとりの力に応じた行動を見守りながら安全に生活できるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400855		
法人名	特定非営利活動法人黎明		
事業所名	グループホーム夢路東ホーム		
所在地	熊本県玉名郡和水町前原90番地-1		
自己評価作成日	平成27年11月10日	評価結果市町村受理日	平成28年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成27年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者・家族が安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいる。利用者以外はすべて環境という、意識を職員全員で持ち、生活空間づくり、危険のない清潔なホーム内を保つようにしている。そして、利用者と共に作っていくことを大切にしている。職員の人的環境を重視し、ホーム内研修に於いて常に学び、深めて利用者の立場に立って考えられる職員研修を行っている。現実、高齢、重度化し看取りがきても、本人、家族、医療機関との連携を図り、最期まで「自分らしく生きる」ことの支援に努めている。利用者の自己決定・意思の尊重を深く考えた生活の支援をしています。そして、地域に開かれたホームであるように情報の発信、協力の要請、相談等を地域と共に行っている。今後も、地域の皆さんと相談しながら、認知症になっても、誰もが安心して暮らせる地域づくりに貢献できたらと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々より良いケアの為に、理念を念頭において、個別ケアを実践して、ホーム内研修にて意見の交換をして、更にケアの向上の為に理念を共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新年の地域児童によるモグラうち、お宮の輪ぐりに参加し、6月には地域に出向き菖蒲の花見、秋には祭りを企画して、認知症サポーターの方々や、地域の方々と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集会、他職の事業所に出向き認知症を深めてもらう為に、サポーター研修を行っている。また、地域の方々の悩み相談を受け問題解決に、協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	福祉課、病院関係、社協、警察、消防署、区の代表の方々、ご家族が参加され、色々な取り組みを報告して、参加された方からの感想、意見を伺い、次回からの取り組みに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の福祉課の方と連携を取り、中学校の福祉体験、家族見学、他事業所からの見学、地域サポーターの見学を受け入れて、認知症の支援に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修で、身体拘束について取組、日々のケアについて振り返り、拘束しないケアを実践している。玄関の施錠は、事故防止の為に、夕方6時には施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修で、虐待について意見交換を行い、ニュースや、新聞等、他事例を参考に、日々のケアを振り返り、些細な事でも見過ごさない様にして、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修で、制度の必要性を勉強している。現在はこの制度を利用されている方はいませんが、支援の必要性は学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明後、不明な事、心配になる事、疑問点を確認している。どんなことでも明確にして、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。日頃から要望などを、声かけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や、その時々で時間を設け、意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事に対する意識や、実績を極め、外部研修に参加意思を確認して、勉強の場を提供し、向上心を持って働ける様環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のホーム内研修で勉強の項目を決めて、知識を広め、現場ではケア時に、指導を受けながらケアの質を高めている。ホーム外の研修では、資格取得の情報提供したり、参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1度のグループホーム連絡協議会に職員が交代し参加し、他のホームと交流をしている。また、講師を招いて、勉強会をしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困り事を聞き逃さず、耳を傾け、ご本人が安心して過ごされる様に環境作りをしいく。そして、信頼関係を深める為に、こだわり、生活習慣を満足される様に、出来る範囲で、出来る方法で提供していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や、悩みを入居時に話をしっかりと伺い、安心して頂き、家族と共に支援していく事を説明して、いつでもホームに来て、相談できる環境作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容をしっかりと傾聴して、どのサービスが現状に合っているのか判断して提供している。また他のサービスを合わせ更に効果が向上する様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長年の経験や、知識を暮らしを共にしていく中で、発揮される場所作りをして、職員も教わりながら、楽しみ、喜びを共に感じ、支え合う関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事や、病院受診に付き添いをしてもらい、ご本人と家族が共に過ごされる場づくりをしたり、日頃の生活の様子を説明して、情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方や、知人のかたが面会に来られた時、気兼ねなくゆつくりと過ごされる様に、希望される居室、面会室、リビングに案内している。また、馴染みのお店、美容室など定期的に外出される様にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	住まれている地域や、仕事関係、習い事など、関係性を把握して、気の合う人が寛がれる場所を提供したり、家事など一緒にして、お互いを認め合い、支える関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去ごに、その家族とお会いした時には、その後の様子を伺い、相談に応じたり、他の施設に行かれても面会に行ったり、お会いした時は、声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中から、思いや希望を聞き取り、申し送りノートを使い情報として共有している。把握に困難な場合は、活動から感じ取り、思いを受け止め、利用者本位のケアに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報書と、入居初日の聞き取りを申し送りノートを利用して、職員で共有している。また、新たな発見も、情報交換して確認し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの、バイタル測定、表情、顔色、食事量、排泄状況、物事に参加される意欲、歩行状態、休まれる時間量など、日々の状態を確認して把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	何が課題を本人に確認し、困難な時には、思いを受け止め、それに即したケアを、本人、家族、関係者と話し合いをして、介護計画書を作成している。また現状に変化があった時には、その都度話し合いをして、見直ししている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の中で、身体状態に変化があったり、思いや、気づきを、明確に記録し、カンファレンスし、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況や、本人の思いを確認し、外泊や家族、親せきと外出したり、食事に出かけられるなど、また、訪問診療、訪問看護を使い色々な支援を組み合わせ、状況に即した支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みにの店に行ったり、地域の祭りに参加したりして、社会参加している。また、踊り、慰問があり、取れたての野菜を頂き、地域の方々と交流をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前から係りつけ医を重視している。また、地域の病院と連携を取り情報を交換し、すぐに協力、対応できる関係作りをしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の方の身体状態に異変がある時には、職員の看護師に相談している。状態によっては、病院受診を行い、看護師が付き添い、受診結果の情報を申し送りノートを使い、情報を共有する。また看取り期は訪問看護の支援を受ける		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は毎日面会に行っている。馴染みの職員の顔を見られると安心されると共に状態の確認をしている。また、面会の時に病院と情報を交換して、連携を取り関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状態が重度化した時には、終末期に向けて、家族、医療機関、事業所と話し合いをしている。訪問診療、訪問看護を導入して、段階に応じて家族へ説明をおこない、ホームと共に支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導で初期対応の実践に取り組んでいる。実践で経験を積み、身につけている。また、勉強会を日頃から行って、急変や、事故等に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防火訓練を行っている。内1回は、夜間を想定した訓練をし、結果をすぐに対応して、ホーム内研修で更に身につけている。また運営推進会議で、災害時の協力体制は出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格、こだわり、今まで生きておられた人生を尊重した声かけをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや、希望を自ら言い出せないで、確認困難な時は、気持ちを和らげ、話し易い対応をしたり、ジェスチャーを交えて、分かり易い対応になる様に工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの身体状況、希望、思いを、常に確認し合い、それを情報として共有して、その思いや希望がケアに添って、達成される様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や、外出時など希望される服を、その都度確認している。また、ホーム内外で希望されれば、お化粧品などして差し上げたりなど、また、美容室に行きたい希望があれば、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで野菜を作り収穫し、一緒に献立を決め、調理に、皮むきや切ったりして、参加してもらっている。出来た料理は、注ぎ分けしてもらっている。献立には、昔馴染みのものをなるべく数多く取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面は食材を確認し、栄養のバランスを栄養士と検討、提供している。身体状況と、好みで、お粥、刻み、常食で、代用食が必要な人は、その都度たいおうしている。また、水分補給も適時行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず声かけをして、歯磨きの行ってもらい、うがい用にお茶を使っている。またその時に、口腔内の異常の確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の状況や、パターンの情報を共有し、汚染につながらない様に、声をかけたり、自然と職員の誘導で行かれ、気持ちよく排泄出来る様にしている。また、困難な方は、シグナルを見落とさない様にして支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時、15時のおやつに冷たい牛乳や、ヤクルトを飲んでもらって、5のつく日は、唐芋を食べてもらっている。毎日の夕食後には、デザートにヨーグルトを食べてもらい、便秘解消の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を気分よく楽しんでもらう為に、バイタルの確認を必ず行い、表情、顔色を確認している。その都度、適しているかの判断をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の思いに添い、居室や、リビング、和室で寛ぎたいなど、過ごしたい場所で、過ごしたい様に状況に応じて対応している。また夜間は安心して眠られる様に、入床されてからも、様子を定期的に、確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病状や、薬の成分を、ホーム内研修で勉強し、服薬時には、必ず本人であることの確認と、手渡しで飲めない方には、口腔内にきちんと入れて差し上げ、飲まれた後、身体への変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、茶碗拭き、野菜の皮むき、野菜切りなど、希望された時にしてもらって、買い物には、天気がよく、気候のいい日に、気分転換を兼ねて、楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と共に外出されて、食事をされたり、買い物に出られたり、ホームの庭や、地域に出られ散歩をされ、話をしたりされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と本人の意思で、お金を持たれている。好きなお菓子や、必要な衣類など、職員と出かけられる。残金も確認をし、希望があれば、お金は預かる事もある。		
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の子供の方や、親せきの方からの葉書が来た時には、代読している。また希望があれば、電話をかけてもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快に思われる音や光には、その都度対応している。また、特に寒がられたり、暑がられるときには、適温にして、過ごしてもらっている。また、季節の花や、庭に咲いている花や、散歩に出られたとき、摘んできた草花を飾って、楽しんでもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気軽に話しが出来る、気楽に過ごされるソファを配置している。テレビを見られたり、本をよまれたりされている。おひとりの時は、さりげなく見守りしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持参された物は、多くはないけれど、布団や、衣類、座布団、タオルケットなどで気持ち良く安心されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分らない時はトイレの文字を、分り易く書いたり、目印になる様に、大きなリボンをつけてり、名札は、目線に合わせている。また、廊下、洗面所、トイレには手すりがついており、玄関には、椅子を置き、靴の履きやすい様にしている。		